

## 「第51回 建築士会全国大会 徳島大会」に参加しました。

関東甲信越建築士会ブロック会  
青年建築士協議会 会長  
(社)東京建築士会 青年委員  
荘司和樹

□10月24日(金) 10:00/徳島入り

前日に徳島入り

徳島大会前日の24日に(社)日本建築士会連合会(以下、連合会)青年委員会委員長の木村さん(東京)と共に、徳島入りしました。まずは、街並みと各イベント会場の視察。アーケード街を歩いていると写真下のような建築士会イベントパネルを発見。随所で、徳島県建築士会の皆さんが明日の大会に向けて設営準備を進めておりました。



アーケード街の随所でみられたパネル展示

アーケード街を抜けると、若手建築士交流プロジェクトの会場となる水際公園があります。水際公園は、左下写真に見えるように新町川を挟んで兩岸の川沿いに延びています。左下写真に見える新町橋と、両国橋との間の範囲が大会当日の夕方より開催される大会懇親会会場のスペースにもなります。若手建築士交流プロジェクト参加者(東京からは白川さん、関プロからは、千葉の山岡さん、神奈川の金子さん、池田さんが参加)は、右下写真に見える屋根部分がオープンになっている船に乗って、周辺をクルージングします。私も乗って見たかったです。若手建築士交流プロジェクトの詳細は、こちらです↓

<http://www.ye-sub.com/kentikusikai/2008/tokushima/U30.pdf>



左に見えるのが新町橋

街並み視察後、大会会場となるアスティーとくしまへ移動。徳島駅からタクシーで10分ほどの所にありました（左下写真）。



アスティーとくしま会場



エントランス風景

エントランスから施設内に入ると、徳島県建築士会の皆さんが慌しく設営準備を進めていました。徹夜続きなのでしょうか、疲れ果ててベンチで横になっている建築士の方も見られました。次に全体開会式会場となる2階フレアホールを見学。ここも、ちょうど設営準備中でした。



開会式会場となる2階フレアホール

□10月24日（金）13：00～／連合会青年委員会

連合会の青年委員会

13：00より連合会の青年委員会が左下写真の2階にある第6会議室で始まりました。議題は、来年3月に予定されている「全国青年委員長会議」について、年に1度、47都道府県の青年委員長が東京に集まり、建築士会活動活性化のための協議を行います。次回の開催内容をどのような企画にするか話し合いました。



連合会の青年委員会終了後、連合会青年委員会のパネル展示コーナーの設営。パネル展示とあわせて現在、作成中の連合会青年ホームページの試作版をプロジェクターで壁に投影。47都道府県の実践活動情報を自由に閲覧することが出来ます（右下写真）。

【参考】

全国7ブロックの活動内容の一般公開は、こちら↓

<http://kenchikushikai-seinen.org/>

実践活動DBの一般公開は、こちら↓

<http://jissen.kenchikushikai-seinen.org/>



次に、私も担当しているセッションⅡ（社会組織型）の会場（3F 第2会議室）へ移動し、設営内容を徳島県建築士会スタッフの石井さん達と打合せしました（いろいろお手数をおかけしました）。



セッションⅡ会場設営風景

□10月25日（土）8：30／大会受付開始

大会受付開始

いよいよ大会当日。最初に交流プラザへ向かいました。関東甲信越建築士会ブロック会（以下、関ブロ）青年協議会より出展している茨城県建築士会青年部会さんのブース内容を確認するためです。左下写真は、交流プラザの受付風景です。交流プラザでは、もの・まち・くらしづくりの3つエリアに分けて様々な建築士会活動が紹介されます。ブースには、活動紹介者もおりますので、活動内容を直接お聞きすることも可能です。気になる活動には、どんどん積極的に質問していきましょう。質問される側も自分達の活動に関心を抱いてもらえるのは嬉しいものです。



左下写真が、関ブロを代表してブースを出展して頂いた茨城県建築士会青年部会（筑西支部）さんのブース展示風景です。発表者は、谷島正憲さん（大会当日、鈴木邦夫さん、百目鬼正崇さんも合流）、地元の教育委員会を通じて地元の小学校とタイアップした企画内容でした。それを読売新聞や茨城新聞地方版へ記事掲載もしている。その地域に根付いた活動内容に東京の青年建築士の皆さん達も熱心に聞き入っていました（左下写真）。ただ、看板が小さかった。また、看板内には、茨城県建築士会と表記すべきでした（右下写真）。発表内容の詳細は、こちらです↓

[http://www.ye-sub.com/kentikusikai/2008/yatai\\_touroku.pdf](http://www.ye-sub.com/kentikusikai/2008/yatai_touroku.pdf)



#### 建築士交流セッションⅡ（社会組織型）

東京や関ブロの青年建築士の皆さんを交流プラザへ案内しながら、本大会の見所を説明した後、13:00から始まる「建築士交流セッションⅡ」会場へリハーサルの準備に向かった。定刻に近づき、東京組や、広島組の皆さん達も来場。最前列に座って頂きました。さらに、北海道勢、大坂組と300名定員の会場が埋まっていきました。定刻となり、いよいよセッションⅡがスタート。テーマは、「今社会に求められる建築士の役割」です。

最初に、国土交通省住宅局建築指導課の宿本企画専門官より、建築関連法改正の解説及び社会動向についての基調講演がありました。非常に明解で、分かり易い内容でした（左下写真）。次に、パネルディスカッション。宿本専門官に加えて、消費者の視点から消費者の代表として脇本さん（福井）、設計者代表として関さん（東京）、施工者代表として本田さん（徳島）、さらに、コーディネーターとして木村さん（連合会青年委員長/東京）という構成です（右下写真）。

感想としては、現在の建築業界の実体について行政と建築士とが共に語り合えた貴重な機会となったと思う。ただし、次のステップへ向けた具体的なアクション（ビジョン）を見出すまでには至らなかった。また、会場からの意見も含めて、非常に残念に感じたのは、国交省が法律（ルール）や法制度整備の決定者であるかのように位置付け、自分達はそのルールの被害者であるという意識を持っている建築士が少なくないことだ。今後は、我々建築士一人ひとりが自分達の業界のルールを自分達で決めていくという意識をより一層高めていかねばならない。法制度を含めたルールの策定をいつまでも行政任せにせず、建築士自身で考え、策定し、その運用状況を再度検証、さらによりよいルールの策定・運用の実践を繰り返し続けていくべきだ。それをもって、「私達は、社会から信頼される建築士です。」という社会アピールへと繋げていけばよいと考える。幸い、この建築士会という全国規模の職能団体を通じてであれば国土交通省への働きかけも出来る。そういったムーブメントの果てに、健全な建築士こそが社会から高い評価を得られるような建築業界が実現すると信じてやまない。

来年の6月に関東甲信越ブロックの埼玉大会をラフテ埼玉で開催します。その中の第三分科会は、今回のパネルディスカッションの延長となる内容にしたいと考えております。

関東甲信越建築士会ブロック会青年協議会については、こちら↓

<http://blog.livedoor.jp/kentiku4/>



基調講演風景



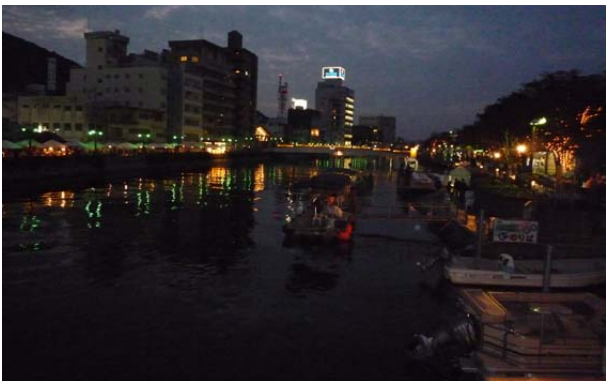
パネルディスカッション風景

セッションⅡ終了後、若手建築士交流プロジェクト会場へ移動。船に乗ってクルージング後、街並み活性のためのワークショップが開催されました（左下写真）。後から、合流した東京の青年建築士達と共に、飛び入り参加しました。川沿いをライン状に伸びる水際広場の一角で開催されていたのですが、通りかかる一般市民の方から「何をされているのですか？」と何度も声をかけられました（その度に、建築士会という職能団体の大会であること、全国から健全な建築士が集まってきていることなどを力説）。微力ながら建築士会という組織PRに貢献できたと思います。



ワークショップ風景

日も暮れて、いよいよ大懇親会です。新町川を挟んで、両岸に別れ、ブロックごとに集合。川に浮かべた特設ステージからビッグバンドのナマ演奏が流れ、懇親会が始まりました。所属ブロックや都府県の枠を超え、互いに知り合いの建築士仲間を紹介しあったり、本日の大会内容について感想を述べ合ったりしました。



### 生まれ始めて文化というものを体感

懇親会の半ばで、川に浮かべられたステージで阿波踊りの体験イベントが始まった。あらかじめ予定されていた参加者達がステージに上がり、そこで阿波踊りのレクチャーを受けます。その後、輪になって阿波踊りを披露。その中から優勝者を決めるというイベントです。体の動きと笑顔が大切ということでした。優勝者は、広島県建築士会福山支部の大森青年部長が受賞。ギャラリーから大きな拍手喝采を受けました。その後、本場の阿波踊り

がステージの上で繰り広げられました。皆さん、いい顔をしている。そういえば、徳島についてからすれ違う子供達がいずれもとても清々しい表情を浮かべていたことに気付いた。東京の白川さんが徳島の青年建築士の方から聞いた話ですが、徳島には浮浪者がおらず、非行に走る少年少女が極めて少ないとのこと。それもこの大人から子供まで一体となって楽しめる「阿波踊り」という地域文化が強く影響しているように感じました。大勢の人間達による一体感、そこから発せられる躍動感に、私自身、鳥肌が立つほど強く興奮し、やがてその美しさに魅了されました。「あー、これが文化ってヤツなんだ」と改めて考えさせられました。大勢の人間が一つの物事に気持ちを一つにして取り組み、その一体感が一つの文化となって地域に根付いていく。地域に根付いた文化は、そこに住む人々を生き活きと輝かせる。それは、建築や、街並み、そして、都市についても共通して言えることでもある。今、我々建築士は、自らの建築行為によって文化を創りだそうとしているだろうか？

否、計画敷地という閉ざされた世界の中で自己満足的な建築行為を繰り広げているだけのように見える。それ故、一般市民の方達から見れば、建築士が文化の担い手とは全く思えないのではないか？

「実際にどんな文化を創ろうとしているのさ？それが見えてこないし、伝わってこないんだもん。」

といった声がどこからともなく聞こえた気がした。それに気付いただけでも、徳島大会に参加してよかったと思います。我々建築士が、本当に建築文化の担い手であるのであれば、作品という名目の自己満足的建築物を作り続けるだけでなく、我々の建築業界の健全化に向けたルール（社会制度）づくりを心一つにして取り組んでいきたいと想いがこみ上げてきました。その後、阿波踊り隊は、地元商店街主催のイベントに合流するため、そのまま東新町のイベント広場へと踊り込み、フィナーレの大乱舞となった。



福山支部の大森青年部長

昨年の北海道大会は「建築士と行政と一般市民とが連携して、住み良い街づくり・くらしづくりを通して、よりよい建築業界の未来を築き上げていくべき」と考えるきっかけとなった。今回の徳島大会では、その具体的なアクションプランの実践を試せたように思います。セッションⅡでは、行政（国交省）とのパネルディスカッションも出来ました。ただ、その上でより一層、今後の業界ビジョンが見えるカタチ、分かり易いカタチで示していかなければならないという危機感が芽生え始めました。今後の連合会、関ブロ、東京の青年委員としての活動を通して、1人でも多くの建築士と向き合い、語り合い、学び考え合いながら来年の山形大会へ向けた実践成果を一つずつ着実に挙げていくことを阿波の地に誓いました。

以上